

「節目を尊ぶ、人生は旅」

松榮山報

令和四年
春季例大祭文前行



150 Anniversary 80



①参拝者休憩所 完成予想図

御創建百五十年終戦八十年記念事業のお願い

当神社には明治維新の勤王の志士五柱をはじめ大分県ゆかりの四四四八柱の御祭神がお鎮まりです。

来る令和七年は明治八年の御創建から数えて百五十年の年を迎え、終戦八十年の年とも相成ります。この大きな節目の年に当たり「御創建百五十年終戦八十年記念事業」を計画いたしました。

終戦から七十有余年を数える昨今、当社を取り巻く環境は以前とは大きく変わってまいりました。しかし、世の状況がいかに変わろうとも今日の日本の平和と繁栄の礎を築かれた御祭神の慰霊と顕彰は次の時代でも必ず果たしてまいります。

その将来を見据えさまざまな世代の方々に心地よく安らいでお参りいただける境内を整えてゆく所存です。

何卒本事業の趣旨にご賛同の上、お力添えを賜りますようお願いを申し上げます。次第です。

令和四年四月



↑↓②参道石畳・玉垣 完成想図



- 一、記念事業の概要
- ①参拝者休憩所 増築
- ②参道石畳・玉垣設置

二、御奉賛要項

【募金目標】一億円

【奉賛金】

●個人 一口五千円から

●法人・団体 一口一万円から

【募材期間】

令和四年四月一日～令和七年三月三十一日まで

【お申し込み方法】

●郵便局ご利用

●ご持参

●銀行ご利用

詳しくは神社までお問い合わせください。



令和四年 春季例大祭を終えて



大分縣護國神社宮司
八坂 秀史

四月九日午前十時三十分春季例大祭を執り行いました。当日護國神社のご神前で、もしくはご自宅から捧げてくださった皆様方の慰霊と感謝の祈りに四四五八柱の御霊たちは必ずやご感応召されたことと拝察いたします。今年も悪疫のため人数制限を設けての齋行でしたが、ご参拝とご奉仕をなされた方々に衷心よりお礼を申し上げます。ご遺族崇敬者の皆様方とともに

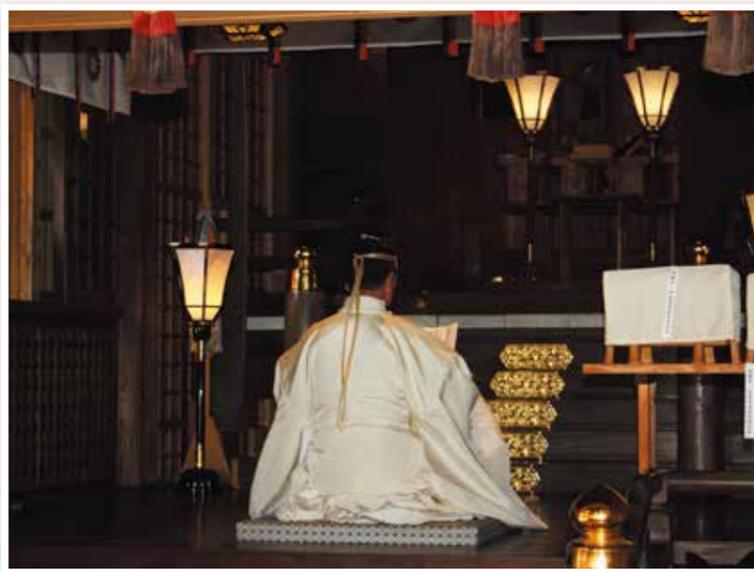
御霊安らかならんことと、今年是世界の平和をひととき強く祈念した日と相成りました。戦争の世紀と呼ばれた二十世紀が終わっても世界ではまだまだ人間同士の戦いは続いています。二十一世紀が始まった西暦二〇〇一年（平成十三年）以降、世界では二十九もの国や地域で戦争が起き、そのうち十か所はいまだ交戦中です。今のわが国では想像できないことが起きているのが世界の現実です。就中、東ヨーロッパの状況は全世界が心を痛めています。かの国の女性はテレビに訴えました「祖国を護るため戦場に赴いた息子を誇りに、誇りに思う。しかし私は：心の中で泣いていた」と。

れた御霊を語り継ぐことの大切さは無窮です。大分縣護國神社は当県の御霊を永代に祀る【ふるさと護るみやしろ】です。春秋二季の例大祭は、その大前に大分県民心を一つにして御霊を偲び感謝する祭祀です。命と平和の尊さを伝えるこのみたまなごめの御祭がこれからも続くように希求します。

三年後の令和七年、当神社は御創建百五十年、日本国は終戦八十周年を迎えます。この大きな節目の年に別途記念事業を計画いたしました。護國神社を取り巻く世情が変わるなか、さまざまな世代の方が心安くお参りいただき、御霊への祈りとご自身の願いをさらに深めるための心地よい境内に整えたく存じます。何卒お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

御霊の安鎮とそこご加護のもと皆様方の日々のお幸せをお祈り申し上げご挨拶いたします。

節目を尊ぶ、人生は 旅



粛々と 春季例大祭を齋行

今年、桜のたけなわを過ぎた護國神社。ご参列の皆さまが見守るなか、静けさと厳かさに包まれて春季例大祭が滞りなく齋行されました。時折、神苑の森の奥深くからウグイスをはじめ、さまざまな野鳥の啼く声は、まるで大祭を嘉し感応しておられる御霊たちの声のようでもありました。

も日本の隣国のひとつですが、その国がまさに先の大戦を彷彿とさせるような脅威を及ぼしているのですから、まるで悪夢の再来のような感じがしています。力によって一考もなくねじ伏せるなど人道に逆らうような愚挙です。人命を奪い街の破壊も容赦せず、原発施設をも破壊し、さらには核兵器の使用まで示唆しています。これまで続いていた人類の平和、非核が覆されるのではないだろうかと思ふ中の人々が、たったひとりの為政者の動向に固唾をのんで見守っています。よもや核兵器の使用はないでしょうが、核兵器を盾にして他国を脅し屈服させるとは愚かしい限りです。

護國神社のもっとも大切な祭典である春秋の例大祭。心ならずもご参列の方々を限らせていただくという春季例大祭も今年で三年となりました。祭典そのものはこれまでと変わることなく神職一同、心をひとつにしてご奉仕して執り行われましたが、この大祭において御霊は血肉を分けた大切なご遺族の、そしてご遺族は国と家族を今でも護り続けている御霊の、それぞれのお側近くでひと時を過ごせることが叶わない現状に、私たちも忸怩たる思いが募るばかりでした。齋行できないという惜しい時間が過ぎていき残念でなりません。

世界中の国々から経済制裁を受けていますが、「窮鼠猫を囓む」の諺のようにならねばよいがと案じるばかりです。とりわけ、日本にとってはもうひとつの隣国である中国がロシアと手を組んでしまったら世界はどうのようになってしまふのでしょうか。ウクライナ情勢が人ごとではなくならないように、人類は大きな過ちをまた繰り返さないように願うばかりです。

御霊とのご縁があるご遺族はもちろん、御霊をお慰めし日本の平和を祈念されるとなたでも、お参りいただいていた大勢のご遺族や崇敬者の方々お姿を思い出すたびに、数年前までの盛儀は夢ではなかったかと懐かしさと寂しさを禁じ得ません。そして一日も早くこの新型コロナ感染の災禍が終息し、以前のような大祭が行われるよう祈りを深くするばかりです。

昔より日本を護ってくださった天照大神さまをはじめとする八百万の神々、そして先の大戦で殉ぜられた多くの御霊。どうかわが国と日本人をお護りください。

平和への思いを新たに、そして強くした令和四年の春季例大祭でした。





例年であれば暦に沿った二月三日の節分祭は、大勢の方々がご参集のもと誠に賑々しく行われていますが、今年にはコロナ感染の第六波と重なってしまい、二月三日の節分祭を延期し、旧暦の節分に当たる三月五日に執り行いました。幸いにも実施できたことは、神恩の何ものでもないことと恐れ感謝の一日になりました。今年節分祭は、イレギュラーな開催となりました。

であれば特設舞台から袴姿の年男女の皆さんによる豆まきを盛大に行い、一陽来復をお祝いしていますが、今年には十名の年男女の方には本殿で厄祓い特別祈願のちに宮司による正式な豆打ちの儀式、そして本殿前にて三組に分けてご社頭に向けて豆まきをしていただきました。まかれた福豆を授かる方々は、今年の年男女のお身内の方をメインとさせていただきますました。折よく神社にお参りや散歩にいらした方々にも加わっていただき、小規模ながら笑顔と歓声に包まれた穏やかな節分祭になりました。

「梅は風情をよしとする」と言われていますが、神苑に咲くブンゴウメの馥郁とした香りが時折吹く風に乘ってご社頭を豊かに包み込みました。少人数での開催に思し召しをくださった御霊たちの心を春の風情に変えて、今日のこの日と年男女の方たちをお祝いしてくれているのではと感じました。

令和四年 年男女の方々

岩尾久一（大分市）・廣瀬舜一（大分市）・大西晃仁（九重町）・多田崇一（大分市）・大江克利（大分市）・山中千代美（大分市）・藤嶋富子（大分市）・海江田有希（大分市）・立川功雄（大分市）・松崎一隆（大分市）

※お申し込み順



大分県遺族会連合会
理事・青年部長
日高正義

「御霊への思い」

「なぜ、私が遺族会に縁を頂いているのか」から説明させて頂きます。昭和二十年七月二十八日、母方の祖父原繁治は軍人として、同年七月二十九日、祖母原頼子は従軍看護師として戦死しています。場所はフィリピンのルソン島です。叔父の原 高耿、叔父の原 晶も戦下のなか命を失っています。奇跡的に生き残った当時十歳だった、母、雛子は今年の二月二日で八十七歳となりました。昭和十年生まれです。終戦後七十六年と数か月。母と春季例大祭・命日祭・みたま祭平和祭・秋季例大祭にお参りしています。御霊がより安らかに穏やかに鎮まりになりますようにと願うばかりです。

祖父原繁治は、中津市耶馬溪町平田戸原の出身です。旧制中津中学校を卒業後、東京師範学校入学、その後旧制第一高等学校に編入後、卒業。宇佐市柳ヶ浦出身の頼子と縁があり結婚。昭和十九年迄は、フィリピンルソン島首都マニラで生活していました。プール付きの家、運転手さん、メイドさんがあるような優雅な暮らしをしていたそうです。昭和十六年十二月八日、真珠湾攻撃、日本のアメリカ、イギリスへの宣戦布告で始まり昭和二十年九月二日、日本の降伏文書調印によって終わった太平洋戦争。日本

の指導者層は、大東亜戦争と呼称した。フィリピンの戦い昭和十六、十七年では日本軍は勝利したそうです。敵の大將ダグラス・マッカーサーは「アイ・シャル・リターン」という敗軍の将として名文句を残してフィリピンを撤退しました。その後昭和十九、二十年、フィリピン奪回を目指す連合国軍の反撃で日本軍の防衛も及ばず激戦の末、ジャングルを迷走する日々へと一変。そして敗戦。

私が大分県遺族会連合会と大分県護国神社様と縁を頂いたのは、平成二十七年一月十八日大分県護国神社儀式殿にて、行われた大分県遺族会連合会主催の「大分県遺族会連合会孫、ひ孫の会の研修会実施に伴う説明会」でした。その後、一般財団法人日本遺族会にご縁を頂いたのは平成二十七年二月二十一日靖国会館で行われた「平成二十六年大分県遺族会連合会孫、ひ孫の会研修会」です。

大分県遺族会連合会、大分県護国神社、日本遺族会、靖国神社での活動は、私にとっては、親孝行と先祖供養、そして社会貢献活動であります。そして、今後は遺族会、大分県護国神社、靖国神社の歴史を学びながら、今日の平和と繁栄の礎を築いて下さった英霊に感謝し、称え、偲び、日本の国の発展と平和な世界を願い、祈念すると同時に、このご縁を大切に、語り継ぐことが出来るよう、地道にコツコツと役に立てる活動を行います。

結びに、ご縁のある皆様方にとって一日一日が実り多い日々でありますよう益々のご多幸、ご健勝、更なるご活躍を、ご祈念申し上げます。出会いそして「縁」に感謝！



権禰宜 一原 昂貴

私事でございますが令和三年十二月二十二日に入籍致しました。妻とは令和二年十二月二十二日に知人からの紹介で出会いました。所謂お見合いでした。勿論お互い初対面。プロフィールと写真は知人から送られてきましたが、話すととなると別問題です。今でも緊張したのを覚えています。私はこの時、ここで出会えたのも何かの「ご縁」。後悔のないように自分を知ってもらおう。伝えきれずに会えなくなるよりは知ってもらおうという覚悟で挑みました。

結果、上手くいって今に至るのですが、後から妻に聞いた話では母から後押しされたのと、私の言った「これも何かのご縁」という言葉に惹かれたらしいです。人の「ご縁」とは不思議なもの

です。今私が大分にいるのも「ご縁」です。職業柄、人との「ご縁」は大切にしております。もしかしたらこの一度しか出会わない人か、今度また会える人か。そんなのは分かりません。だからこそまたまた出会って、たまたま私と話せて良かった。そう思っていただけだった。いいなと日々考えながら人と接しています。

閑話休題、以前は休みが合わずになかなか二人の時間がありませんでしたが、今は自分と妻の職場がちやうど真ん中にある別府で暮らしております。物静かです。り者で自分には勿体ない奥さんなど自分でも思いますが、勿論周りからも言われます。

新しい生活がスタートしましたが、これからお互いに支えあって、喧嘩もして、泣いて、笑ってと何でも共有できる、そんな関係を築いていきたいと思っています。

人事往来

眞藤 美月
令和四年三月三十一日付で退職
斎藤 海斗
令和四年四月一日付で出仕を命ず



6月25日(土)・30日(木)

夏越 大祓式 ご案内



植物たちに恵みの雨をもたらせる日本特有の気候である梅雨。命の蘇りのありがたい季節でもあります。若葉から濃い深緑へと移りゆく木々の命の輝きと強さがことさら美しく映え、私たちの心さえも浄化させてくれるかのような非常に清らかな季節であると言えます。何よりも瑞穂国の日本にとっては、田を潤し稲を育む重要な雨の季節でもあります。生命の常若や自然の営みを感じる六月三十日は日本古来のお祭り、夏越大祓式です。

当神社境内に設えられた瑞々しい茅の輪の緑が鮮やかに映るのもこのお祭りならではの。一般参加の方々とともに、知らず知らずの間に身につけてしまった年明けから半年間の悪しきことを祓い清めて、新たな半年間のスタートとします。

こんこんと湧き出る清らかな水に浮かべると、茅の輪くぐりで今年前半のさまざまなを祓っていただきます。

日時／令和四年六月二十五日(土)ならびに三十日(木) いずれも午後三時より
場所／大分県護国神社神門にて夏越大祓式斎行
水のお祓いと茅の輪くぐりのあと本殿にて参拝
初穂料／一世帯三千円
◎事前、当日とも社務所にて受け付けております



美しい四季とともにある麗しき日本。神様を敬い日常生活においても常に神様とともに過ごす日本人。日本におわします天神地祇と、松葉山にお鎮まりの大神様へご自身の平安を祈る古くからのお祭りにお誘い合わせの上、ご参加ください。



素晴らしい！眼下には日出の街がひろがり泉都の背後には由布鶴見の峰がそびえる。別府湾の反対側にはおむすび型の高崎山が座り大分市街地、東には佐賀関半島と高島まで望める。日出城址二ノ丸の亡き祖母宅あたりに目を凝らせば、城下海岸で泳いだ遠い夏休みの思い出が浮かんでくる。春霞の中にも予想以上の光景に驚嘆した日出町城山からの眺めだ。

桜ほほ満開のなか日出町鹿鳴越連山のひとつ城山を目指した。日出藩三代藩主木下俊長公を祀る横津神社に参り出発。杉木立の急坂に汗が噴きだす。林道を経て再び山道に。鮮やかに華やぐ黄色一色の菜の花に迎えられる古い石段を登ると歩き始めて二七分でもう着いた。石の笠木が真ん中で折れそうな古い鳥居をサツとくぐり冒頭の景色を愉しむ。標高三四二Mの細長い頂上の奥には茶枳尼天(だきに天)と呼ばれる柔和なお顔のご尊像が四体。台座には「国家安泰」「萬民快樂」と彫られている。合掌して世界の平和と健康を祈る。

落ち葉でずり落ちながら道なき道に迷いながらも情報通り垂直の岩壁につき当たる。壁伝いに上り下りしながら進むなか獣がエサをほじくり返した痕跡を何か所も目にする。今日は山歩きじゃなく探検だなどワクワクもするし、岩壁に残る古いハーケンを見つけホッとしたりもする。やがて風雨で崩れた石段が現れその先の山あいの平地には祠が森厳として鎮まっていた。草に埋もれた礎石、苔むした手水鉢や手掘りの石灯籠、瓦の破片などからして下の石鎚神社の旧社殿地か。ただ祠のシデだけはなぜか真っ白で新しくあった。さらに踏み分けらしきものを辿り、崖に垂れたロープを登りその上の鎖場も越え、最後に背丈以上の岩をヒーコラよじ登ると遂に双眼鏡で見上げた石祠の大前に辿り着いた、奥の院だ！鶴見山群を背後に従え鎮座する石祠は強烈な「神気」を放ち峻厳な空気感を漂わせる。

岩上に坐しこうべを垂れ畏怖の境地にひたる。石祠はこちらの岩場より一段高い向こう側の巨岩に鎮まるが間には細い赤茶けた梯子が架かるのみ。祭礼時はこの空中の梯子を渡るのか？五年前石鎚山主峰一九八二Mの反り返った岩壁の絶頂で味わった戦慄と至福が甦る。同じ感覚をここでも覚えたのはやはり石鎚大神の御神意だ、肅然とした。

帰路ふり返ると山腹には斜めに白い筋。日出護る神仏への道しるべ、この季節ならではの城山の粹な計らいだ。今日も一日山に、春に感謝をした。

みたままつり献灯のお願い



四四四八柱の尊い英霊をお祀りする大分県護国神社の夏の風物詩みたままつり。今年も献灯にご賛同いただきたくお願い致します。

- 小型提灯(47センチ) 初穂料/一灯 五千円
- 大型提灯(68センチ) 初穂料/一灯 一万円

お申し込み 大分県護国神社 〒870-0925 大分市牧一三七 電話/〇九七-五五八-三〇九六(代) FAX/〇九七-五五八-三〇九八 振替/〇1950-4-18874 ◎振替用紙は神社社務所でも用意しております お申し込み締め切り/七月三十一日(日)